



山奥の熊は獲らない
山鳥の雌は逃がし山菜の芽は残す
山の恵みに山人として感謝しかない
〈福島県三島町 菅家藤一〉

山人

やまんど

— 縄文の響きが木霊する —

監督・撮影・編集 原村政樹

プロデューサー 鈴木敏夫 撮影地 福島県三島町 出演 菅家藤一

2025年/74分/カラー/ビスタ/制作・著作 アグリシネマ

人はどのよう
自然と共存して
きたのか



©agri cinema 上映時間74分



山
やまんど

— 縄文の響きが木霊する —



山を守るとはということなのか？ 山を守り続けられるのは誰なのか？

「山には神が宿る」と語る菅家藤一さんの行動すべてに意味があった



菅家藤一さんプロフィール

1953年、福島県三島町間方地区に生まれる。子どもの頃から両親と一緒に山に入り、山菜や茸の採取や狩猟を行ってきた。優れた編み組細工の作り手でもある。

原村政樹監督からのメッセージ

今から8年前、奥会津の山深い集落を訪ね歩いていた時、まづ目に入ったのはかつての日本の伝統的な風景でした。

屋根はトタンに葺き替えられているものの茅葺屋根の家を壊すことなく暮らしていたのです。

そこで山の自然に詳しい菅家藤一さんを訪ね、お話を聞くことにしました。菅家さんは山の自然を壊すことなく、山の恵みに生かされて暮らしていました。その生き方に深い感動を覚え、多くの人に伝えたいとこの映画を創ったのです。

原村政樹プロフィール

1957年生まれ。埼玉県川越市在住。〈主な作品〉『海女のリャンさん』、『いのち耕す人々』、『無音の叫び声』、『武蔵野』、『食の安全を守る人びと』、『タネは誰のもの』、『若者は山里をめざす』、『山里は持続可能な世界だった』



三島町の紹介

奥会津三島町は、福島県の西部に位置し、只見川が町中央を貫流。冬季の積雪が2m近くになり、特別豪雪地帯にも指定された典型的な山村である。NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟。

連絡先 アグリシネマ〈鈴木敏夫〉 アグリシネマ

〒350-1133 埼玉県川越市砂 846-3

Tel./Fax. 049-242-4811

Email. agri_cinema@mbr.nifty.com

映画公式HP▶

yamando-agri-cinema.com



都内独占公開! 3月28日(土)~4月10日(金)
連日10:00~

3月28日〈初日舞台挨拶〉主人公・菅家藤一氏、原村政樹監督登壇

★連日 原村監督のトーク有

3月29日 田口洋美氏(狩猟文化研究所代表/東北芸術工科大学名誉教授)登壇

特別鑑賞券発売中 1,400円(税込) ※当日一般 1,800円の巻

※詳細は映画公式HP、または劇場まで

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿ドコモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席



ドキュメンタリー映画「^{やまんど}山人 ~ 縄文の響きが木霊する」

■山里3部作、ついに完結

『若者は山里をめざす』、『山里は持続可能な世界だった』に続き『山人』が完成 —
福島県奥会津地方の山奥の村に、山を知り尽くしたと呼ばれる山人(やまんど)が暮らしている。菅家藤一(かんけとういち)さん、昭和28年生まれ。彼は一年を通じて山に入り、山の自然を壊すことなく、山の恵みに生かされて暮らしている。それは縄文時代から受け継がれてきた暮らしの作法。そこには私たちが持続可能な未来を実現するための羅針盤があった —

■原村政樹監督メッセージ

今から8年前、奥会津の山深い集落を訪ね歩いていた時、まず目に入ったのはかつての日本の伝統的な風景でした。屋根はトタンに葺き替えられているものの茅葺屋根の家を壊すことなく暮らしていたのです。そこで山の自然に詳しい菅家藤一さんを訪ね、お話しを聞くことにしました。菅家さんは若い頃から奥山に分け入り、今も山の恵みに包まれて生きてきました。その生き方に深い感動を覚えました。

菅家さんの山での営みを映像記録すれば、私たち、現代人が見失いがちになった大切なメッセージを伝えられるのではないだろうか。そう確信した私は菅家さんに取材を申し込んだところ、すぐに受け入れられました。そして撮影を始めると、常に菅家さんの言葉の深さに感銘することの連続でした。菅家さんは「山には神様を感じる」と言います。この言葉こそ、現代人が忘れてしまった最も大切な心だ、それを日本中の人に伝えたい、その想いでこの映画を創ったのです。

・春は山菜の季節

ゼンマイ、ワラビ、コゴミなど多彩な山菜が芽吹く。全部は採らないで必ず残しておく。そうすることで毎年、途絶えることなく良い山菜が採れる。

・山ブドウで籠を作る

菅家さんは伝統的な生活雑貨作りの名人。貴重な山の資源を絶やさずに利用する先人たちの知恵の継承者だ。山には神様を感じるという。そこには自然への感謝の心があった。

・熊との共存

「狩猟は文化だ」という菅家さんだが、害獣駆除で無分別に熊を殺すことに心を痛み、「熊が絶滅するかもしれない」と山奥での熊狩りを止めた。狩猟が解禁される前、鳥獣供養を欠かさない。

*菅家藤一：1954年福島県三島町間方地区生まれ。10代の頃から両親や祖父母から山の生業の技術を継承。伝統工芸品は全国でも高く評価されている。三島町猟友会会長。

***制作スタッフ：**

鈴木敏夫（プロデューサー）、原村政樹（撮影・編集・監督）、丸山昇（整音）、映像技術（LEE EUGGU）マヤグチヨウコ（題字）、FUNNIMAL MANUFACTURE（宣伝美術）、植田智道（HP制作）、moi（収録スタジオ）、佐藤紘一（予告映像）アグリシネマ（配給）

***後援：** 奥会津書房、福島県三島町、（一社）農山漁村文化協会、JUON（樹恩）NETWORK

【上映情報】

①K's シネマ（東京都新宿区新宿3丁目35-13）：3月28日～4月10日（連日午前10時より）

※都内独占公開となっています。

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿ドコモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03（3352）2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席



- ・3月28日（土）上映後：菅家藤一氏と原村監督の対談
- ・3月29日（日）上映後：マタギ研究者・田口洋美氏（東北芸工大名誉教授）の話（聞き手：原村）
その後3月30日～最終日4月10日まで、連日、上映後原村監督舞台挨拶

②川越スカラ座：4月18日（土）～5月1日（金）（上映時刻未定）

埼玉県川越市元町1丁目1-1 Tel. 049-223-0733 ㊤休館日 21(火)、22(水)、28(火)、30(木)

- ・4月18日（土）、4月26日（日）上映後、原村監督のトークイベント（予定）

③5月以降、第七藝術劇場（大阪）にて上映予定。以後、全国の映画館での上映推進。

※公式ホームページ：<http://yamando-agri-cinema.com/#pageTop>

または、ドキュメンタリー映画『山人（やまんど） 一縄文の響きが木霊するー』で検索

令和8年2月10日

事務局：アグリシネマ（鈴木方）
〒350-1133 埼玉県川越市砂846-3
鈴木敏夫：Tel&fax：049-242-4811
E-mail：agri_cinema@mbr.nifty.com
（自主上映の開催ご希望の方は上記までご連絡ください）

©2025アグリシネマ 2025年/日本/カラー/74分